

第11回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。

あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっていきます。

そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。

毎回のテーマに関して、あらかじめ知識が必要となるわけではありません。唯一お願いするのは、毎回提示される「書物」あるいは「短文」を読んでおくこと、それだけです。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。気軽な気持ちで参加してください。

いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

今回読んできていただくのは、「美しい味」をテーマにした文章です。

テキストは、下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

話題提供者 宇佐美 文理 (文学研究科教授)

テキスト 「美しい味」

主催：京都大学 学術研究展開センター (KURA)

場所：附属図書館3階共同研究室5

対象：京都大学学部学生 (正規生) 先着10名

使用言語：日本語

費用：無料

申込方法：右記QRコードよりお申し込みください →

<https://forms.gle/eQknioFoSEyPsgfH9>



[お問い合わせ]

京都大学 学術研究展開センター (KURA)

KURA

「百万遍談議」担当

jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp

★これまでの開催記録はこちら →

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



京都大学



2023.11.18 [SAT.]

15:30—17:00

2023年11月18日
百万遍談議 開催報告

第11回 美しい味

話題提供者

宇佐美 文理 文学研究科 教授

参加者：6名

[内訳]

1回生 1名（理学）

2回生 2名（文学・工学）

3回生 3名（うち2名は法学・1名は医学）

談議メモ

とある架空の国家「Y国」の大使に招かれた食事会で、物語の主人公と料理人が「美しい味」をめぐる大使——その人は盲目である——と交わす意味深長なやり取りの数々。多様な読みの可能性に開かれたそのテキストにかじりつきながら、参加者たちの談議は美を感じることで自身が有する主観性（＝他者と共有困難な感覚）や、その際に見出される五感との関係に着目することから始まりました。

五感との関わりで言えば、「美しい」という表現は、少なくとも日本語の世界では視覚や聴覚を中心として捉え得る対象においては馴染むけれども、それ以外の、とくに味覚という点では難しいとする意見が多くみられたいっぽうで、「美しい味」を誰よりも理解しているように見える大使その人がまさに視覚に依存していないという事実を思い出すたび、参加者のみなさんの議論はふりだしへと引き戻されます。

その後、視覚や聴覚以外で捉えられ、しかも他者と共有できる「美しさ」とは何かを話し合ううちに、対象は不可視のものへと移行し、次第に数学の定理や黄金比、調和に美の本質が見出されるように。その根拠は「完璧さ」に求められ、時代とともに変わりゆく流行などの美とは異なり、不変／普遍のものとして捉えられることで、参加者の多くから賛同を得つつ議論が進んでいきました。

途中、最近エチオピアを訪れたという参加者の一人から、同国では「美しい、おいしい、きれい」といった感覚が「コンチョ」という一語で表されることや、同地にて手で食し、美しいと感じた料理「コロ」（トウモロコシのような穀物を炒った素朴なもの）が紹介され、一気に話が盛り上がる場面も。

終盤には、「美しさ」とは物そのものには内在しておらず、それを個々人が「美しい」と感じる精神のみしか存在しないため、そもそも客観的なものとして言語化し共有する必要もないのでは、といった意見も飛び出し、終始、議論があらゆる方向へと飛び火しながら拡散していった回となりました。